

# 読売歌壇

## 小池 光選

東山千栄子の大きな尻がいい何度みても良い  
 「東京物語」 下野市 川中子とよ子  
 【評】小津安二郎監督の不朽の名作「東京物語」。東山千栄子は年老いた母の役。そのお尻が大きい。いわれて見ればたしかにそんな感じだ。どっしりとしてどこか悲しい。「初物じゃ」父が頬ばる焼きサンマ先週食べたことも忘れて  
 大津市 長田 恵子  
 【評】老境のもの忘れは、程度が進めば悲惨な現実を招くが、この歌はユーモラスでむしろ楽しい。いつ食べても初物であればこんな便利なこともない。天真爛漫のごとし。  
 友だちと話す時には「ママ」でなく「お母さん」と言ふ小五の女孫 藤枝市 北泊あけみ  
 【評】思春期の入り口にさしかかって、ことばもこれまでとは変わる。家ではママ、友達との会話ではお母さん。その微妙な差異、妻が内われが外からガラスふくととき目が合う暮れの掃除は 東京都 大室 英敏  
 杖ついでゆつくり歩く雪の道誰もがやさしく「気をつけてね」と 加茂市 田代 旅子  
 黒猫の赤き首輪がちらほらと見え隠れして通り過ぎたり 山形県 伊藤 啓泉  
 膨らませ肩で威嚇をするような顔の自動車近頃多し 福山市 宇田 雅子  
 つらいこといっぱいあった十年にたくさんできた歌の数々 鳴門市 楠井 花乃  
 沈黙が怖くてひとりはいでた別れの予感何処かで感じて 東京都 鈴木真理子  
 正月はあつという間に過ぎてゆく孫三歳の一人舞台で 仙台市 鈴木 武志

## 栗木 京子選

犬の名が「デコピン」と聞きくやしがる兄は「デコボン」栽培農家 羽曳野市 鎌田 武  
 【評】大谷翔平選手の愛犬の名がデコピンとわかり、話題に。一方、デコボンは蜜柑の一種の商品名。どちらも語感が愛らしい。悔しがる兄の姿がほほえましい歌。  
 前橋市 星野久美子  
 【評】お札を縦に四つ折りにすると、肖像の箇所折りじわが入る。樋口一葉の顔に折り目の付いた五千円札が、目の前にあるのだ。  
 「ボチ袋」がお年玉を連想させて楽しい。  
 子に負担かけじと常々おもえども四度も転んでどっぶり世話に 東京都 通力 紅  
 【評】気丈な作者はすばらしい。ただ、無理は禁物である。「どっぶり世話に」に転倒を客観視する余裕がうかがえて感心した。  
 若者の「〇〇離れ」次は何 クルマにテレビまさか国まで？ 習志野市 郷 知念里  
 移りゆく町を見守り百年の運河を祝ふ冬火花かな 小樽市 石田ちづる  
 明るくてどこか悲しい唄声は真夜に聞える母のプギウキ 高松市 島田 章平  
 柚子刻み蕪を刻みてこの師走吾が内の何を刻めば良きか 坂戸市 納谷香代子  
 クリスマスケーキは二十六日に買はぬ珈琲濃いに淹れて 奈良県 若林 明良  
 シクラメンは窓辺に咲けり誰もあぬ正月二日の新聞店の 静岡市 柴田 和彦  
 人なべて海より生れしと言ひし友の散骨の日の灣は屈きいて 吹田市 辻井 康祐

## 依 万智選

ストーリーがひとつひとつに描かれた揺れる観覧車の断面図 千葉市 小金森まき  
 【評】観覧車のゴンドラは、球状の部屋を切ったもので、その断面を私たちは見ている……という捉え方が斬新だ。それぞれの小部屋のストーリーを覗き見するような感覚が、うまく表現されている。  
 倍速で生きられないのに動画だけ駆け足で観る夕焼け空よ 入間市 大野 美波  
 【評】ほほほほゆったりしている夕焼け空の動画。倍速視聴したくなる気分もわかる。でも……上の句が問いかけとして心に残る。来年のまだ上がらない暮として今年の残る暦一枚 東京都 武藤 義哉  
 【評】12月の暦は、年内でお払い箱という寂しさがあるが、こんな見方をしやることもできるのだ。見立ての妙を楽しむ一首。  
 合格は君を遠くへ連れてゆく小児P.A.S.M.Oを切り替える春 横浜市 檜次さくら  
 白菊が冬の蛍に見えたからあぁ今わたし寂しいんだな 日高市 金沢 潤子  
 親友と僕のあだ名がくっつければ恐竜だった春の校庭 東京都 富見井高志  
 シュートレン薄く切りゆく十二月のしいことは少しづつ減る 札幌市 住吉和歌子  
 人よりも風に近い人だから ばあばの手から風は浮きゆく 大和郡山市 本田 岳  
 日常と変はらぬ元日これもよしこの自由なる老ひの独り居 市川市 井田 千明  
 二時間の仮眠をとればつそのよに体が軽い無論嘘だが 東久留米市 中里 正樹

## 黒瀬 珂瀾選

思いがけず夫を失い残像がいつもの朝にゴミ出しに行く 防府市 梁瀬 則子  
 【評】突如、世を去った夫。現実をなかなか受け入れられないまま、いつもゴミ出しをしてきた生前の夫の姿が、朝になるたびに思い浮かぶ。喪失の悲しみを見つめた一首です。夢と疑ふ息子の死なればこの九年夢に一度も見たることなし 吹田市 鈴木 基充  
 【評】右に同じく、大切な人を喪った歌。息子の死を心が受け入れられないあまり、夢すらも見ないという。悲しみの深さを思う。美しき名の市や町を載せる半島に冬の雨降る口惜しき雨 射水市 玄 兎  
 【評】輪島、珠洲、穴水など、地名の美しい能登半島。そんな豊かな風土を擁する能登で今、被災者の皆さんが、北陸の冬に苦しんでいる。早急かつ手厚い支援を、ただ願う。  
 書き初めは「ツハモノ」なりき昭和十九年兄は志願し兵となりたり 野田市 青木 作郎  
 濃い色の紅茶を姉と飲む部屋に冬の陽光のあはあはと満つ 前橋市 丸山 裕子  
 孫の描くじいじはおたずね者となりけんしょう金が2円は安い 伊那市 酒井 夏枝  
 ゲルマラジオより始まりし我なりぬ最後にひとつBOSEを買わん 狭山市 奥蘭 道昭  
 月ひとつ星あまたさて今宵わがカップラーメン塩わかめ味 雲南市 熱田 一俊  
 ジビエたら小洒落たもんだやないけん冬は猪喰ふ村に生まれぬ 岩出市 西岡さちよ  
 服薬で生かされている老身に無事の夕餉はこよなき吉蓮 淡路市 河合 律子

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、日本橋郵便局留、読売歌(俳)壇、〇〇先生(希望選者名)係または読売新聞オンラインから ◇毎週月曜日に掲載 右の影絵ははまぐり